

舞鶴市のごみ収集やごみステーション に関する市民意識調査の結果

平成29年2月23日(木)

京都府立大学
京都政策研究センター

1 高齢者への配慮①

- 80歳以上では「ごみ出しで歩くのもつらい」、
「古紙類が重い」がそれぞれ約30%
- 高齢世帯の古紙の出し方
65%は不燃ごみ収集日を利用
約40%は集団回収を利用
- 30～70歳は、「不燃ごみの立ち番が嫌」、
「不燃ごみの収集回数が少ない」が
約30～40%

1 高齢者への配慮②

- ごみ出しが困難な世帯への支援方法
行政支援（一部自己負担） 25%
地域支援 23%
行政支援（租税負担） 15%
- 自己負担額は100円か200円程度

2 立ち番の負担感①

- 立ち番を負担に感じている人 約60%
「かなり負担に感じる」人は14%
「やや負担に感じる」人は42%
- 立ち番制度の継続性
10年後も「今のまま続けられるのは難しい」
47%、「続けられる」は17%
- 「かなり負担に感じる」人の71%、
「やや負担に感じる」人の57%が
「今のまま続けられるのは難しい」を選択

2 立ち番の負担感②

- 今後の立ち番をどうすべきか

| | |
|------------|-----|
| 自治会実施 | 37% |
| わからない | 16% |
| 事業者等に委託すべき | 13% |
| 不要 | 12% |
| 行政がすべき | 9% |

3 リサイクルプラザへの 不燃ごみ持ち込み

- 主にリサイクルプラザに持ち込む人 13%
ときどき持ち込む人 30%
- 地区によってリサイクルプラザの利用率にばらつき
- 自治会非加入者は主に利用 約30%
- 若年性ほど利用 20～30歳代は30%弱
- スーパー等の店舗での古紙回収
30歳代では約50%利用

4 自治会非加入者

- 自治会加入率 各小学校区で92%以上
- 非加入世帯は、40歳代以下の一人暮らしが相対的に多い
集積所・集団回収の利用率が低く、古紙ボックスの利用率が高い
- ごみのシステム
集積所を自治会で管理すべきと思う人は加入が66%、非加入が27%
（「わからない」「その他」が多い）

自由記述欄から

- 回収回数が少ない(月1回)
- 集積場までの距離、ゴミ重量
(高齢者、障害者等の負担、将来への不安、家族の負担増懸念)
- 立番への負担
(就業前の対応による遅刻・時間休、冬場等の体調悪化、ルール徹底を求めることによる近所付き合いの悪化懸念)
- リサイクルプラザへの持込
(平日のみの対応への不満、クルマの使用が前提)
- 分別の必要性への疑問
(分別ルールの複雑さ、回収後の処理方法や回収費用の不明確さからの不信感)

自由記述欄(住民のアイデア)

- 自治会未加入者へのルール徹底
- 回収品目ごとの回収日分散
- 分別による処理費用の軽減状況明示・周知
- 高齢者宅等のゴミ出し支援
- 自宅前での各戸回収
- リサイクルプラザへの休日持込、持込有料化

5 立ち番の再考①

- 自治連合会等からの要望に基づく、立ち番制度が平成10年からスタート



- 立ち番を負担に感じている人 約60%
- 立ち番制度を10年後も「今のまま続けられるのは難しい」47%
- 30～70歳は「不燃ごみの立ち番が嫌」が約30～40%

5 立ち番の再考②

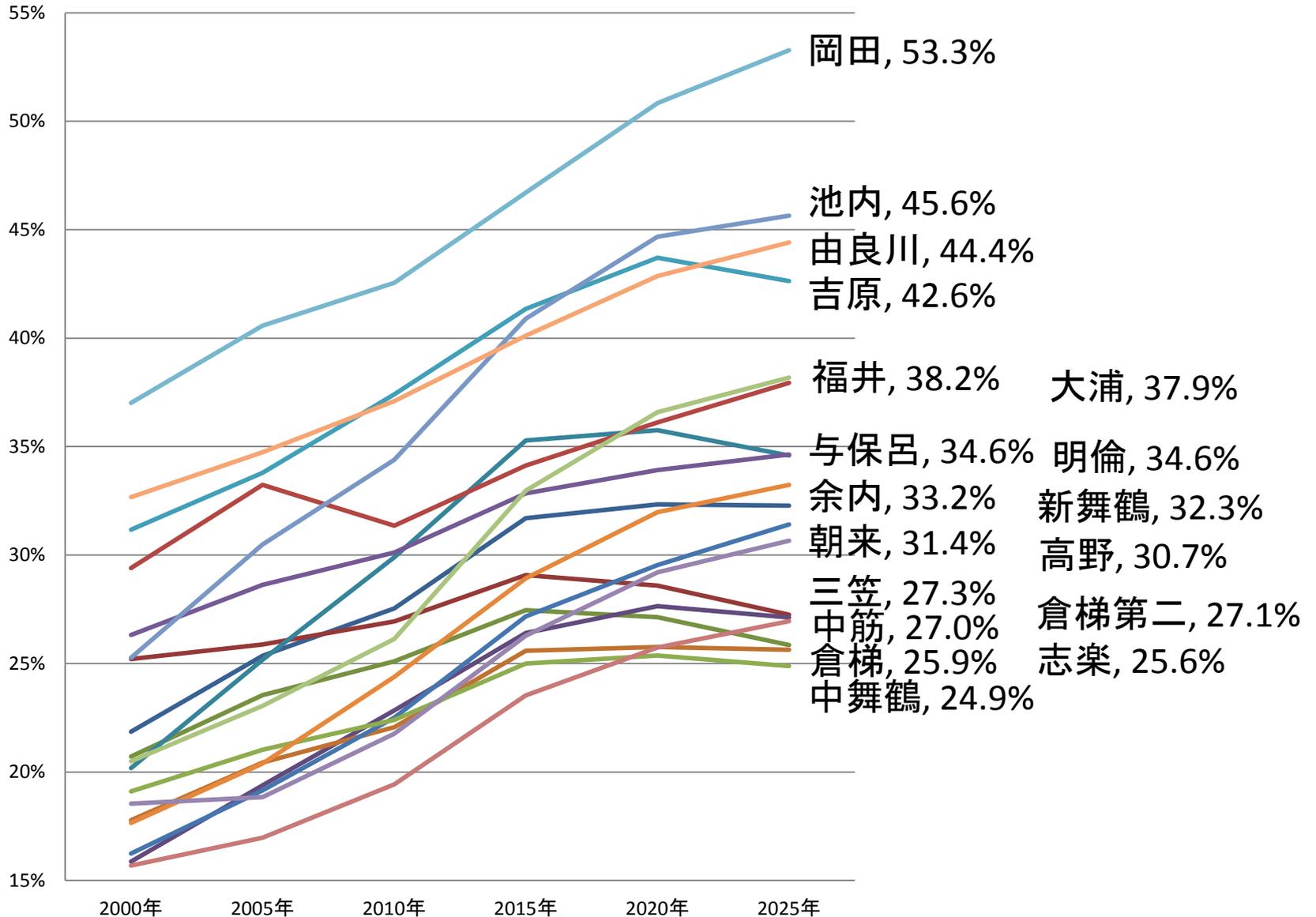
- 今後の立ち番をどうすべきか

| | |
|------------|-----|
| 自治会実施 | 37% |
| わからない | 16% |
| 事業者等に委託すべき | 13% |
| 不要 | 12% |
| 行政がすべき | 9% |

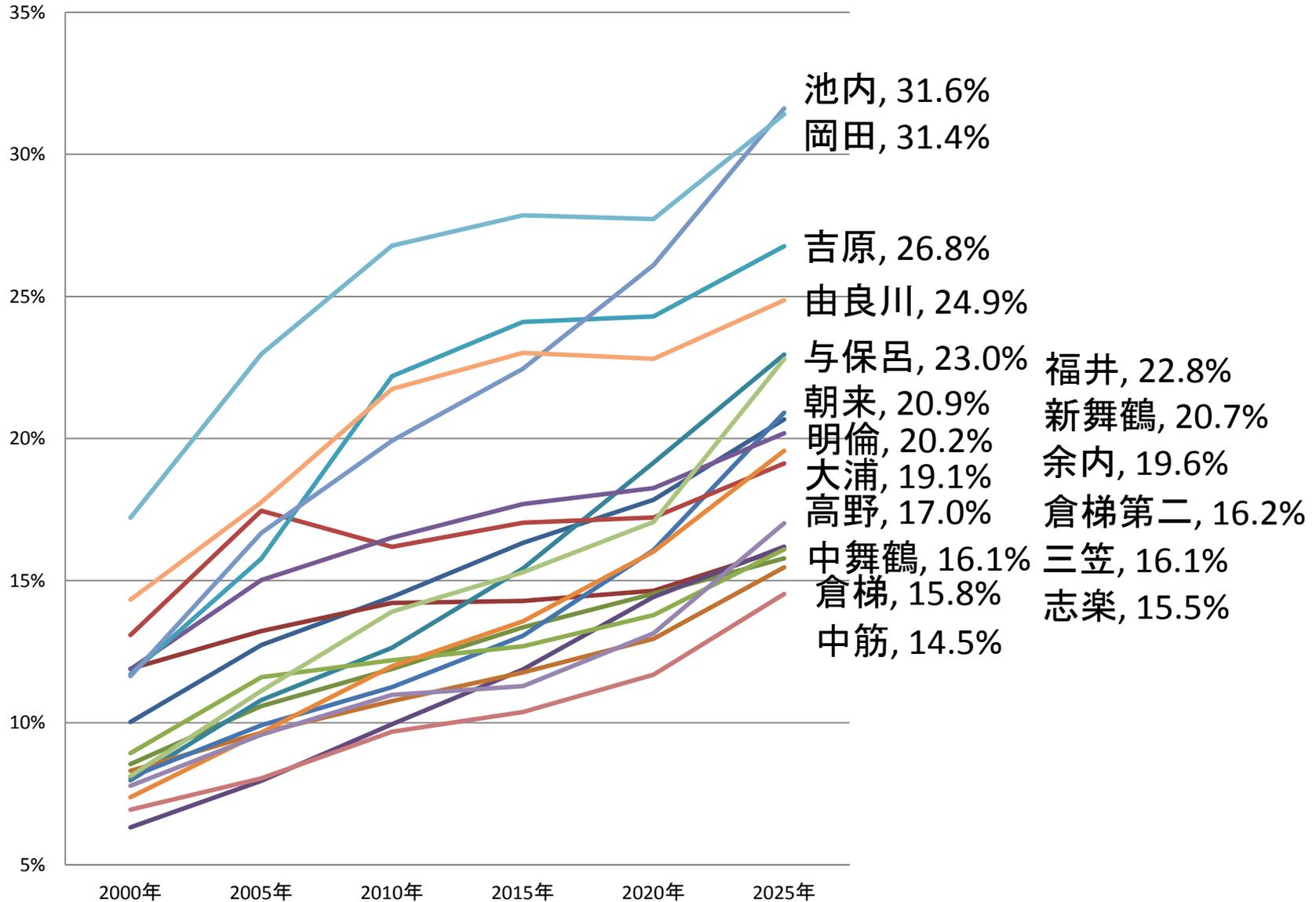


自治会実施を継続すべき？

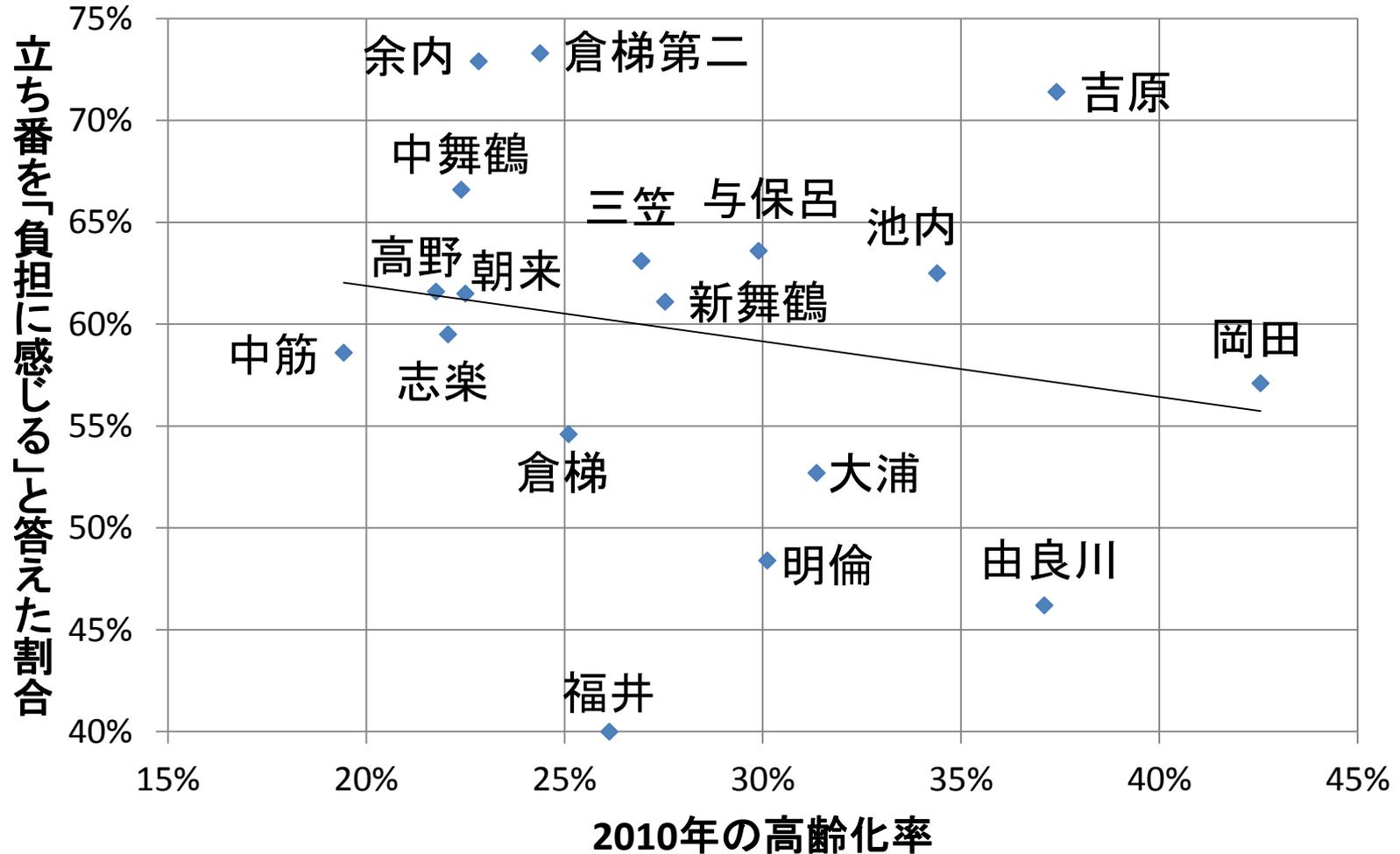
舞鶴市高齢者率(65歳以上の割合)推計



舞鶴市後期高齢者率(85歳以上の割合)推計



立ち番を負担に感じる割合と 2010年高齢化率



10年後の立ち番制度「困難性」と 2025年の後期高齢化率

